

地域間幹線系統確保維持計画（原案）に対する意見募集の結果について

千葉県バス対策地域協議会安房分科会で協議のうえ作成した「地域間幹線系統確保維持計画（原案）」について、令和8年5月14日から同年5月28日まで意見を募集したところ、南房州本線（ジェイアールバス関東(株)）について意見をいただきました。提出された意見及び検討結果の概要は次のとおりです。

1 意見の提出件数 3件

結果の公表にあたり、協議対象路線の地域間幹線系統確保維持計画(原案)に関連する意見を抽出させていただきました。

2 意見の概要と検討結果 以下のとおり

意見の概要	検討結果
・インターネット上には乗降車や乗り換えをするバス停に関する情報が分散しており、観光客や移住して間もない住民には一元的に把握できる媒体がない。そこで、バス会社の垣根を超えた問題解決ツールとして、南房総・館山公共交通マップ兼時刻表を作成し、配布してほしい。 ・車内ではバス会社の垣根を超えた路線図の掲示や、観光需要を取り込むために1日乗車券、各種フリー切符の案内があると良いと思う。	南房総・館山公共交通マップ兼時刻表の作成と配布について、沿線関係市に確認したところ、公共交通マップを活用してWEB上の時刻表案内付きマップを作成し、情報発信を行うことを考えている旨、回答がありました。なお、日東交通(株)及びJRバス関東(株)に確認したところ、関係事業者や関係自治体との調整が必要となるが、今後の情報発信や利用促進策の参考とさせていただく旨の回答がありました。 また、1日乗車券、各種フリー切符の案内について、沿線関係市、日東交通(株)及びJRバス関東(株)に確認したところ、南房総・館山地域公共交通活性化協議会にてスマホ1日、2日乗車券、回数券を作成しており、今後の課題として、わかりやすい周知や案内のために車内掲示やホームページ、チラシ等での広報に努める旨の回答がありました。 そのため、計画に記載のとおり「公共交通マップを活用し、路線の情報提供や公共交通機関利用の発信を行い、利用者の増加を目指す。」及び「経済的な乗車方法(スマホ1日乗車券等)の周知を図り、

	利用者の増加につなげる。」こととし、令和９年度地域間幹線系統確保維持計画については、原案のとおりとさせていただきます。
--	---

意見の概要	検討結果
・多くの需要が集まるイオンタウンへ館山鴨川線、南房州本線で行く場合、館山市内線または「かいまーる」へ乗り継ぎをしなければならず、荷物を持った高齢者には負担となる。対して、館山市内線で館山病院や安房地域医療センターへ行く場合も乗り継ぎが必要となる。そのうえ、館山市内線の館山航空隊～館山駅間からイオンタウン館山を越えて乗りとおす需要はそれほど多くない。以上の理由を考慮して買い物・通院時間においては館山鴨川線、南房州本線の起終点をイオンタウン館山に変更、一方で館山市内線において館山病院、安房地域医療センターまで延長するという連動した再編をされてはどうか。そのような再編が難しい場合については、日東交通同士の路線のみとなるが、乗り継ぎ割引の存在を車内掲示や沿線市広報にて周知して、乗り継ぎという負担や面倒を軽減するのはどうか。	沿線関係市に確認したところ、計画で「支線との連携を改善し幹線としての機能強化を検討する」としており、起終点を含む時刻表の調整など、運行事業者や各市と今後検討の参考とさせていただく旨の回答がありました。 なお、日東交通（株）及びＪＲバス関東（株）に確認したところ、ルート延長については、乗務員体制への影響も大きく早急な対応は難しいため、慎重に検討し、今後の路線見直しの際の重要な課題とする旨の回答がありました。また、日東交通（株）は、乗り継ぎ割引の効果的な周知方法についても検討を進めていくとの回答がありました。 そのため計画は修正せず、令和９年度地域間幹線系統確保維持計画については、原案のとおりとさせていただきます。

意見の概要	検討結果
・館山病院、おどや、南総文化ホールへのアクセスや、下真倉地区の国道４１０号バイパス沿いの住宅地の開発、沿道の発展が進んできていることを考慮し、買い物・通院時間において一部の経由を４１０号バイパス、南町経由に変更されてはどうか。	J Rバス関東（株）に確認したところ、ルート変更は既存のお客様への影響が大きく、加えて深刻な乗務員不足もあり、現時点での実施は非常に厳しい状況であるが、今後の路線見直しの際の重要な課題として社内で共有させていただくとの回答がありました。 そのため計画は修正せず、令和９年度地域間幹線系統確保維持計画は原案のとおりとさせていただきます。